技術屋は、
世界が変わる
場所にいる。

ULVAC

ULVAC

株式会社 アルバック

〒 253-8543
神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
TEL: 0467-89-2033
www.ulvac.co.jp

CP-JP-2611

すごいものを、真っ先につくれ。
科学の現場で見つかる発見を、いち早く産業で
活用されるものに進化させるのが、技術屋の醍醐味だ。

あらゆる現場に答えをだせ。
技術がある。経験がある。
何より、専門の異なる頼れる仲間がいる。
ありきたりの正解ではなく、
唯一無二の答えを出せるのが、技術屋集団だ。

やりたい事をやりきれ。
フロンティアはいつも、
技術屋がやりきった先に見つかる。

宇宙、半導体、レアアース、そして
まだ名前のついていない新分野まで。
あらゆる先端産業には、真空技術が必ず必要になる。
だから、ULVAC の技術屋はいつも、
世界が変わるその現場で躍動している。



TOP MESSAGE

まだ見ぬ未来に、真空技術で挑む。

世界を変える技術は、いつも新たな挑戦から生まれます。ULVAC は時代の転換点に立ち、真空技術で社会の進歩を支えてきました。そして今、AI や半導体、エネルギー、宇宙など、新しい可能性が次々と広がっています。私たちの使命は、その可能性を製品という価値に変えて、社会へ届けることです。誰もやっていないからこそ、やってみる。創業から受け継いできた技術屋としての誇りを胸に、これからも挑戦を続けます。



代表取締役社長執行役員

清田 淳也

変わりゆく産業
変わらない
技術屋のイズム

無数の可能性を持つ真空技術。
ULVACは世界の変化を技術で支え、
その最前線で、まだ見ぬ価値を
かたちにしてきました。

01

PIONEER

産業の転換点に、いち早く入る



FPD、半導体、そして宇宙へ。
産業の姿がまだ定まらない段階から、
技術の可能性を見つけ、挑戦してきました。

02

ENGINEERING

難題を、技術で突破する



お客様の難しい課題にも真摯に向き合い、
考えるだけで終わらせず、使える技術として実装する。
「ULVACなら何とかしてくれる」という信頼を築いてきました。

03

CULTURE

技術屋としてやりきる



年齢や役職にかかわらず、技術で議論する。
若手にも裁量を与え、やりたいことをやりきる。
自由闊達な文化が、新しい技術を生み出します。

04

LONG TERM

まだ先の技術を、育て続ける

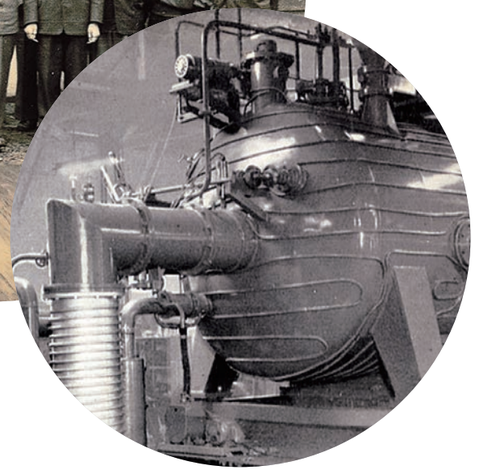


目先の市場だけを追うのではなく、
真空技術を起点に、次の可能性を
長い時間軸で育てる。
未来の産業につながる技術を、途切れさせません。

産業の変化とともに

半導体、エネルギー、モビリティ、宇宙。
産業が大きく変わるとき、そこには新たな技術課題が生まれます。
ULVACは創業以来、真空技術を起点にその課題と向き合い、
技術の可能性と活躍のフィールドを広げてきました。





1952–

真空技術を国産化、産業の力へ

戦後復興とともに、日本の産業が再び動き始めた時代。1952年、真空技術で日本の産業に貢献するという志のもと、日本真空技術株式会社が誕生しました。海外製真空装置の輸入販売からスタートし、やがて自らの手で国産化へ。真空冶金をはじめ、原子力、宇宙開発などへ応用領域を広げ、日本の産業と科学技術を支える礎を築いていきました。



1970s–

エレクトロニクスの進化とともに

テレビや電子機器が普及し、エレクトロニクス産業が大きく発展した時代。より高性能な製品を量産するため、モノづくりにも新たな精度と生産性が求められるようになります。スパッタリングやイオン注入、CVDなど、真空を活用した製造技術を次々と開発。真空技術の可能性をエレクトロニクスへと広げ、急速に進化する電子産業の発展を支えていきました。

1990s–

デジタル化を支える、FPD・半導体へ

パソコンやデジタル機器が普及し、情報化社会が一気に加速。半導体やディスプレイにも、さらなる高性能化と量産化が求められるようになります。半導体向けの製造技術を磨くとともに、大型化するFPDにも対応。事業領域が大きく広がるなか、2001年には社名を「株式会社アルバック」へ変更。デジタル社会を支えるモノづくりへ、そのフィールドをさらに広げていきました。



2020s–

次の産業と、持続可能な未来へ

デジタル化があらゆる産業へ広がる一方、脱炭素や省エネルギーなど、モノづくりに求められる価値も大きく変化しています。先端半導体のさらなる進化に応えながら、次世代エネルギーやモビリティなど新たな領域へ。培ってきた真空技術を起点に、次の産業と持続可能な未来を支える挑戦を続けています。



真空技術を追求し、未知の可能性を拓く。

「真空」に関する装置や加工、分析など幅広い領域の技術を追求。
長年培ってきた知見と社会のニーズを掛け合わせ、次世代の産業に
必要不可欠な価値を生み出す研究開発を進めています。



茅ヶ崎本社・工場

神奈川県茅ヶ崎市

真空技術による
モノづくりの最先端

半導体や電子部品、ディスプレイなどの製造に不可欠な真空装置全般を開発・製造。さらに、その技術を応用した新たな価値創造にも挑戦しています。社会の変化を見極め、未来のモノづくりを支える革新的な製造技術の実現を目指しています。













富士裾野事業所

静岡県裾野市

「記憶・判断」を司る半導体製造の要

主に、AIデータセンターやスマートフォンなどに採用される先端・成熟ロジック・メモリ向け製造装置を開発・製造。お客様の量産を支えるCIP（Continuous Improvement Program）開発やカスタマーサポート機能を有し、高品質な製品・サポートをお届けしています。







Technology Center PYEONGTAEK

韓国京畿道平澤市

次世代半導体製造装置の開発を加速

韓国を拠点に、お客様と次世代半導体製造装置やプロセスの共同開発を推進し、量産技術の確立を目指しています。グループの人財と技術を結集し、お客様のニーズに応える高品質な装置の迅速な提供と技術サポートの強化に取り組んでいます。

アルバック未来技術協働研究所

大阪大学 吹田キャンパス

次世代デバイスや医工学など、幅広い分野の基礎研究を実施。大阪大学との産学連携を通じ、革新的な材料・技術を提案する創造力豊かな人財を育成。研究者同士の交流と研究開発を推進しています。

アルバック先進技術協働研究拠点

東京科学大学 大岡山キャンパス

プラズマ計測技術をはじめとする先端研究とULVACの技術を融合し、次世代デバイスや先端プロセス技術の創出を推進。東京科学大学との産学連携を通じて、イノベーション創出と人財育成に取り組んでいます。

千葉富里事業所

千葉県富里市

電子部品・各種フィルムなど、さまざまな製品における薄膜形成プロセスを研究。材料開発にも取り組み、次世代デバイスの進化や製品づくりを支える技術の実現に貢献しています。

技術をかたちにし、
世界の産業へ届ける。

研究開発で培った技術を、確かな製品へ。
日本・台湾・韓国・中国の生産拠点がそれぞれの強みを活かし、
グローバル最適な生産体制で、ULVACのモノづくりを支えています。



九州工場

鹿児島県霧島市

グローバルな供給を
支える主力生産拠点

ULVACの主力事業である半導体・電子部品製造装置をはじめ、真空ポンプなどのコンポーネントやマテリアルまで、幅広い製品の生産を担う最大規模の工場拠点です。高い生産技術と生産体制を強みに、国内外の拠点と連携しながら、世界各地へ製品を供給しています。









ULVAC TAIWAN INC.

台湾台南市

台湾における半導体産業の最前線

台湾・台南サイエンスパーク内の工場で、半導体・電子部品向けの真空装置を生産。半導体産業が集まる地域に近い立地を活かし、台湾をはじめ世界のお客様へお届けしています。



ULVAC KOREA, Ltd.

韓国京畿道平澤市

先端産業の発展を支える生産技術

半導体・電子部品・ディスプレイ分野向け製品の主要生産拠点及びコンポーネントのサービス拠点として、韓国および世界市場に製品を供給。これまで培った大型装置の生産技術と製造ノウハウを基盤に、先端産業の発展に貢献しています。



愛発科真空技術（蘇州）有限公司

中国江蘇省蘇州市

市場に応える真空装置・大型部品を製造

中国・蘇州工業園区で、ディスプレイをはじめ、半導体・電子部品向けの真空装置と、真空チャンバーなどの大型部品を生産。グループの技術と現地のモノづくりの力を組み合わせ、中国をはじめ世界のお客様へお届けしています。

富士裾野事業所

静岡県裾野市

先端半導体の製造に欠かせない成膜装置を生産しています。設計・技術部門と連携しながら、高品質で信頼性の高い装置をつくり、世界のお客様のモノづくりを支えています。

東北工場

青森県八戸市

半導体向けのスパッタリングターゲット（薄膜を形成するための材料）と、タンタルなどの高融点活性金属材料を生産。原料の溶解・焼結から加工、仕上げまでを工場内で一貫して手がけ、国内外のお客様へ供給しています。

真空技術を核に、6つの事業領域へ。

目には見えない小さな世界から、巨大な装置の製造まで。
ULVACは科学の発見を産業の力に変えながら、
世界のモノづくりを動かしています。

主な事業領域



半導体・電子部品製造装置

AIやEVなど、社会の発展を支える最先端技術の基盤をつくる。



ディスプレイ・エネルギー関連製造装置

進化し続けるディスプレイやEVバッテリーの高機能化に応える。



一般産業用装置

自動車から金属、医薬品まで、幅広い産業を真空技術で支える。



コンポーネント

真空環境をつくる、測る、守るなど用途に応じた製品を製造。



マテリアル

半導体・電子部品の進化を支える、高品質な先端材料を提供。



表面分析

高度なナノレベルの表面分析技術で、研究開発や品質管理に貢献。

1 半導体・電子部品製造装置

Semiconductor and Electronic Device Production Equipment





生成AIやEV（電動車）など、現代の暮らしを支える半導体や電子部品。そのなかでも、メモリやロジック半導体は情報を記憶・演算する「頭脳」として、パワー半導体は電気の流れを制御する役割を担っています。ULVACは、これらに加えて、通信デバイスやオプトデバイスの製造に必要な成膜などの加工装置やプロセスを開発。空気中のわずかな不純物を排除したり、半導体への加工工程を安定させるためには真空環境が重要です。私たちは、創業以来培ってきた高度な真空技術を通じて、最先端デバイスの製造を支えます。

2 ディスプレイ・エネルギー関連製造装置

Display and Energy-Related Production Equipment





スマートフォンやパソコン、タブレット、テレビなど、身近なディスプレイの製造にも真空技術が活用されています。さらに、EVの普及に欠かせないバッテリー部材の製造でも、真空中で材料を薄く均一に付着させる巻取式成膜装置を提供。巻取式成膜装置で製造される部材は、バッテリーの軽量化、安全性向上、省資源化の実現に貢献します。真空および周辺技術を総合利用した先進的な製造ソリューションで、多様化するニーズに応えます。

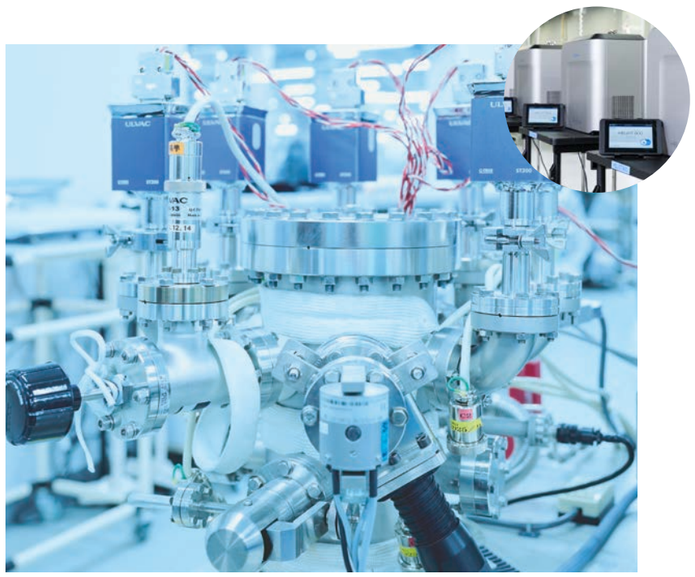
3 一般産業用装置
Industrial Equipment





金属、自動車、家電など、常に時代に求められる装置や技術を提供し、さまざまな産業の発展に貢献してきました。現在では、これまで培った基盤技術を駆使して、EV駆動モータに使われる希土類磁石の真空溶解炉や真空焼結炉、タンタルコンデンサ製造用真空焼結炉、各種熱交換器製造用真空ろう付け炉などを手がけています。また、医薬品分野では、医薬品用凍結真空乾燥装置で安全・品質を支援。環境負荷低減と持続可能な社会の実現を目指し、幅広い産業や分野に多彩なソリューションを提供しています。

4 コンポーネント
Components





私たちの身の回りには、真空技術や低温技術を利用した製品が数多くあります。そうした製品を高い品質でつくるには、真空環境そのものを適切に保つことが重要です。ULVACは、真空をつくる「真空ポンプ」、状態を測る「真空計」、ガス種を判別する「プロセスガスモニタ」、漏れを検査する「ヘリウムリークディテクタ」など真空環境をつくり、測り、守る製品を開発。自動化だけでは難しい細かな作業には技術者の手仕事も活かし、装置事業とも連携しながら、高い品質と付加価値を持つ製品を世界中に届けています。

5 マテリアル
Materials





真空技術を応用し、半導体や電子部品の製造を支える高機能・高品質な先端材料を開発・製造・販売しています。主力のスパッタリングターゲットは薄膜形成に使われる材料で、最先端の半導体デバイスの開発・生産を支えています。さらに、タンタルやニオブなどの高融点活性金属材料を電子部品や化学、医療、加速器など多分野に提供。真空装置で培った技術と知見を基盤に、溶解・加工・製造まで、お客様のニーズに合わせて対応し、信頼されるパートナーとしてグローバルに安定供給しています。

6 表面分析
Surface Analysis





「目に見えないものをデータ・情報に変える」分析技術で、材料の表面や界面をナノレベルで解析。XPS、AES、SIMSなど世界トップクラスの表面分析装置を通じて、半導体や電子部品の微小領域まで高精度に分析し、研究機関での先端開発から製造現場の品質管理、故障解析まで先端デバイスの高性能化や安定生産を支える技術を展開しています。



CULTURE

技術屋が育ち、挑む場所

技術を育てることは、人を育てること。
一人ひとりが専門性を磨き、自由に意見を交わし、
まだ答えのない課題に挑戦できる環境をつくる。
ULVACの技術は、そんな文化から生まれています。



SUSTAINABILITY

持続可能な未来を支える

環境負荷の低減から、人権の尊重、地域社会への貢献まで。
ULVACは、事業活動と技術の両面から、
持続可能な社会の実現に取り組んでいます。



人財開発

**一人ひとりの
専門性を伸ばす**

新入社員教育から階層別研修、経営人財を育てる選抜型研修まで、キャリアに応じた学びの機会を用意。モノづくりと真空の基礎を学ぶ生産教育や、独自の教育ポータルなど、専門性を伸ばす環境を提供しています。



挑戦できる風土

**やってみたいを
技術に変える**

グループの社員が国や地域を越えて取り組みの成果を発表し、称え合う「UL-GAIA」を毎年開催。改善提案制度や自己啓発の支援、クラブ活動など、一人ひとりの「やってみたい」を後押しする仕組みがあります。



働きやすい環境づくり

**力を発揮し続けられる
環境へ**

時差出勤や時間単位の年次有給休暇など、柔軟に働ける制度を整えています。育児や介護と仕事を両立するための支援も充実させ、ライフステージが変わっても安心して活躍し続けられる職場づくりを進めています。



環境への取り組み

**事業活動の
環境負荷を減らす**

2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを掲げ、主力生産拠点を中心に再生可能エネルギーの導入を推進。また、省資源・省エネルギー製品を「ULVAC Green Products」として認定し、持続可能な未来に貢献しています。



責任ある事業活動

**人権を尊重し、
責任ある事業を世界で**

国際規範に基づく「ULVAC人権方針」を策定。RBA行動規範を参照枠組みとし、労働・安全衛生・環境・倫理の各分野において責任ある事業活動を推進し、サプライチェーン全体での継続的な改善に取り組んでいます。



社会への貢献

**技術を、
持続可能な社会の力に**

子どもたちが科学に触れる真空実験教室や工場見学、地域の皆様を招く「ULVAC Festival」、森林整備や清掃活動など、各拠点で地域貢献、環境貢献、次世代育成を推進。地域とのつながりを深めています。

世界の産業のそばに

日本からアジア、北米、欧州へ。
ULVACは、研究開発・生産・販売・サービスのネットワークを通じて、
世界各地の産業と技術の進化を支えています。



● Europe

ULVAC GmbH

● Japan

(株)アルバック
アルバック機工(株)
アルバック・ファイ(株)
アルバック・クライオ(株)
(株)昭和真空
アルバックテクノ(株)
アルバック販売(株)
日真制御(株)

● Asia

愛発科(中国)投資有限公司
愛発科商貿(上海)有限公司
愛発科真空設備(上海)有限公司
寧波愛発科真空技術有限公司
愛発科真空技術(蘇州)有限公司
愛発科(蘇州)技術研究開発有限公司
愛発科東方真空(成都)有限公司
愛発科東方検測技術(成都)有限公司
寧波愛発科低温泵有限公司
愛発科自動化科技(上海)有限公司
愛発科真空技術(沈阳)有限公司
愛発科天馬電機(靖江)有限公司
愛発科費恩斯(南京)儀器有限公司
香港真空有限公司

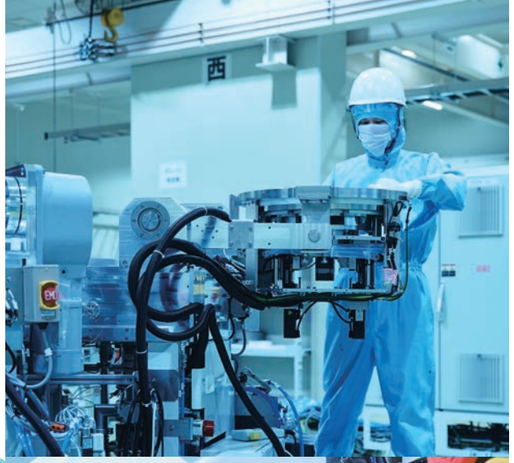
ULVAC SINGAPORE PTE LTD
ULVAC (THAILAND) LTD.

ULVAC TAIWAN INC.
ULTRA CLEAN PRECISION TECHNOLOGIES CORP.
ULVAC SOFTWARE CREATIVE TECHNOLOGY, CO.,LTD.
ULVAC Materials Taiwan, Inc.
ULVAC AUTOMATION TAIWAN Inc.

ULVAC KOREA, Ltd.
Pure Surface Technology, Ltd.
ULVAC CRYOGENICS KOREA INCORPORATED

● North America

ULVAC Technologies, Inc.
Physical Electronics USA, Inc.









商号	株式会社 アルバック ULVAC, Inc.
商標	ULVAC
本社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立	1952年8月23日
資本金	208億7,304万2,500円
事業内容	ディスプレイ・半導体・電子・電気・金属・機械・自動車・化学・食品・医薬品業界及び大学・研究所向け真空装置、周辺機器、真空コンポーネント、材料の開発・製造・販売・カスタマーサポート及び諸機械の輸出入。また、真空技術全般に関する研究指導・技術顧問。

経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、
真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、
産業と科学の発展に貢献することを目指す。

2050年にありたい姿

真空技術で世の中のためになる価値をパートナーとともに
生み出し、人と地球の未来に貢献し続けている企業

〈経済成長・社会的豊かさ〉
最先端の技術開発でより安全・安心、かつ豊かで便利な
社会の実現に貢献する
〈人の幸せ〉
すべての人が幸せな生活を送るための
社会づくりに貢献する
〈環境〉
地球にやさしく持続可能な社会づくりに貢献する

Vision 2032

未来につながる「可能性の場」であり続ける